

社会

出題の傾向

地理、歴史、公民の3分野から総合的に出題しています。形式的には各分野別に大きな問題を設定しているように見えますが、各分野を総合的な面から出題しており、かたよった学習や単なる知識の断片の暗記に終わらず、総合社会として学習しているかどうかを確認できるよう出題しています。ただし、出題する内容は必須事項ですので、教科書や資料集で基本事項を丁寧^{ていねい}に整理し、そして総合的に内容を理解し、さらに正確に表現できるまでの受験準備を心がけてください。

2017 今年度の出題と解説

今年度の入学考査は、①地理、②歴史、③公民の順で出題しました。その出題形式は昨年度と比べて大きな変化はなく、問い方や考え方はできるだけ同じ形式で出題するようにしました。ただ、地理分野の表の読み取りで苦勞する受験生もいたようですが、過去の入試問題で反復学習した受験生も多かったのか、正答率は高かったです。今年度の問題傾向と誤答例について、気づいた点を下記に分野別で示しておきます。

①地理分野

出題傾向としてはここ数年とほぼ同じでした。今年度は、題材としてまず日本地理を扱い、そこから世界地理に問題を広げていく内容でした。今年度のように日本地理からたずねていく場合、また、年によっては世界地理を用いて出題していく場合があります。切り込み方の違いだけで、出題は両方の分野におよんでいますので、表面的な違いに戸惑うことなく、落ち着いて問題に対応してほしいです。今年度の場合、10の都道府県の地理的な資料（農牧林水産業など）から、地図と各都道府県の説明文（各都道府県の工業の様子）との組み合わせをたずねていく内容が中心でした。この表自体を見たことはなくても、まず説明文を読んで6つの都道府県を導き、地図を見てその都道府県を結びつけた後、表中にのせられている各都道府県の特徴の中からヒントになる項目に注意し、その項目の数値に近いものより、空欄の都道府県を特定するという手順で解答していく手法が有効です。今後、1つのテーマ〔農牧業・資源（林水産・エネルギー・鉱物）・工業製品など〕について、教科書で学んだ基本事項を地図や地図帳の表・資料と照らし合わせて総合的にまとめていく学習法が有効です。問2の「混合農業」と答える問題を、「酪農」と答えた受験生が目立ちました。毎年出題されている「時差」に関する問題の正答率はとても高かった

です。日本地理のみならず、世界地理も学習しておきましょう。

②歴史分野

今年度は、古代から現代の歴史までをA～Iの各文で幅広く出題しました。問われた内容のほとんどが歴史上の人物や歴史上重要な用語であり、比較的よく出ていました。しかし、記述問題が多く漢字の間違いが目立ちました。漢字の誤りでは、問1（6）の「元禄」の「禄」を「ころもへん」にしている受験生が目立ちました。また、問6の「太閤検地」の「閤」の字が「閣」になっている受験生が目立ちました。また問題のほとんどが日本史に関する内容ですが、問5、問7の世界史と日本史の時代把握の問題などは毎年出題しています。これらの点から日本史・世界史の各時代の内容整理（政治史・文化史）とともに、学習し理解した内容を、必ず漢字で正確に表現できるよう日頃から心がけて学習しておきましょう。

③公民分野

今年度も、例年同様、国内情勢に関する新聞の社説からの出題でした。全般的にはよく出ていましたが、歴史同様、記述問題の漢字の間違いが目立ちました。毎年、日本国憲法の三大原則や国民の三大義務はよく出題しています。社会保障や国際組織、時事的な問題についても基本的な事項をしっかり押さえておく必要があります。また、例年経済・金融分野の問題もよく出題しています。このような問題に対応するためには、近年の国内、国際面でのニュースに常に関心を持ち、教科書の基本事項を理解し、正確に表現・選択できるよう日頃から心がけて学習しておきましょう。

対策とアドバイス

次年度の入試では、出題形式の変更があります。①日本地理、②世界地理、③歴史、④公民の大問を出題する予定です。多少出題傾向は変化するものの、教科書や資料集を中心とした出題に変化はありません。しかし、基本問題を中心に出题しますが、「基本」は決して簡単というわけではありません。単なる暗記で対応できる問題だけではなく、理解をしているかどうか重点をおいた出題を常に心がけています。まず①日本地理では、地図、都道府県の農牧林水産業や工業の様子などを理解しておいてください。②世界地理では、地図、世界の国々・地域の特徴などを理解しておいてください。地理分野では、統計・グラフ等も必ずチェックしておいてください。③歴史では、教科書や資料集などにのっている歴史的な作品や図・資料は必ずチェックしておいてください。④公民では、最近の出来事にも関心を持ち、日頃から新聞の記事などにも興味を示しておくことが重要です。

どの分野においても、教科書・資料集などで基本事項をしっかり整理し理解を深めれば、高得点をとる事ができるでしょう。